建築とリフォームの情報紙
技のリフォーム HOT PRESS
2006年7月
編集・発行／
技ネット株式会社

［特集］技

黒を基調に「モダンな和」の住まいをつくる

～アイディアとセンスで、懐かしくて新しい空間が誕生～

母屋との整合性を考えた住まい

富山県南砺市北部には、田園地帯に住まいが点在する散居村が見られる。Iさんご夫妻の実家も散居村に建つ純和風の住まいである。昨年、アパートから実家に移ることになり、敷地内の納屋部分に住まいをつくることにした。

「母屋の増築のような形になるので、母屋との整合性が必要だと思い、ある程度和風な感じにしたいと考えました」と、Iさん。

Iさんご夫妻がいろいろ調べて、要望したのが黒を基調にしたモダンな和の住まいだった。担当者は、ご夫妻から雑誌などでイメージを見せてもらい、設計にかかった。

「一般住宅で黒というのはこれまでありませんでした。スペースも限られていたので、母屋とは渡り廊下でつなぐことにしました」と、担当者。

外観は、黒色のガルバリウム鋼板を使用し、母屋の外壁の張り方と合わせて横ラインとした。5月の連休前に納屋を解体し、連休明けから着工した。

黒の色合いを求めて、試行を重ねる

内観について、床はヒノキを使用し、壁は構造用合板とすることとした。

「子どもが小さいので、床が傷つくと危ないですから、スギより硬いヒノキにしてもらいました」

しかし、ヒノキに塗装をすることは滅多にない。

「スギだと結構色が付きやすいんですが、ヒノキを黒くしたらどうなるのか、仕上がりがイメージできにくかったんです」と担当者。

黒といっても、色の深み具合がある。そこで、まず床を1回塗って一緒に確認をし、その上でもう1回塗ることになった。同じように梁、壁も2度塗りをした。

「いい感じになったと思います」と、Iさん。天井は梁を見せ、シックな和空間となった。

この物件の特長は、Iさんご夫妻と担当者がひんぱんに打ち合わせをし、その中からアイディアが生まれていったことにある。

リビングから続く階段の踏み板は赤だが、これも黒にあうアクセントカラーを考えていた打ち合わせのなかで出てきたという。

黒を基調にしたリビング。奥がモノトーンのキッチン（上）。玄関ホールにある三日月の壁（左）。外観も黒、赤と斬新な和を感じさせる（下）。

「打ち合わせルームに赤い置物があったんですよ。渋い赤なんですけど、『あっ、この色いい』って言ったんです」と、奥さまは語る。

玄関ドアやトイレのタイルも同様の赤を採用し、しっとりとしてモダンな和の感覚を出している。

玄関を入ると目の前の壁に、三日月が浮かんで見える。珪藻土の壁に凹凸で表現したものだ。

「これも打ち合わせをしていて、この家がイメージ的に夜の感じなので、月をモチーフにということになったんですよ」と、担当者。実際につくるのは苦労したという。原寸の型をつくり、糸で曲線を出した。左右に付けた細長い明かり取り窓も斬新だ。

赤の踏み板を採用した階段。渋い赤を出すのに苦労した。

名付けて「ノスタルジック・カジュアル」

玄関の土間は、モルタルに墨を入れて濃いグレーとし、ご主人が選んだ円形の石が埋め込まれている。

キッチンは、敷地の都合で対面式にできなかったため、カウンターを設置。そこには、奥さまが雑貨店で見つけてきた可愛いタイルが埋め込まれている。

「お二人がいろいろなアイディアを言われて、私たちが到底思いつかないようなものもありましたね」

専門家の視点から、2階の天井に二重の断熱材を入れた。黒い家の熱の吸収性を考えてのことだ。

照明も、考えなければならなかった。通常の空間なら十分な明るさも、黒い空間では足りないかもしれない。結果としてリビングは可動式のスポットライトとし、ほしい箇所に光を移動するだけでなく、光の演出が楽しめるものとした。

寝室の壁には、お子さんの手形と足形を付けるなど、さまざまなアイディアやこだわりが詰まった家は、昨年9月に完成。随所にセンスの良さが感じられる新しい「和」の家が誕生した。

「レトロなようで、ポップなテイストもある。『ノスタルジック・カジュアル』と名付けました」と担当者。それは、お二人の美術的センスと、暮らしを楽しむ心を映し出し、印象の強い住まいとなっている。

今月のオーナー訪問

親身になって、同じ目線で。

担当者の方は、同じ目線に立って話を聞いてくれて、共感を持てるところがありました。年齢が近いので感覚も似ていたのでしょうね。

玄関の石とか、どこかへ行くたびに何か使えるものはないかと探して。人と違ったものにしたいという思いがありました。

それと、現場監督さんが、まるで自分の家を建てるみたいに一生懸命に「こうしたらいいよ」と言ってくれたのがうれしかったですね。リビングのドアも天井までにしたらいいよ、とか。それがなかったら、妥協してここまではしてないと思うんですよ。いい感じに仕上がって、皆さんに「お店みたいね」って、よく言われます。

技のリフォーム
0120-183-304（イイワザ ミセマス）